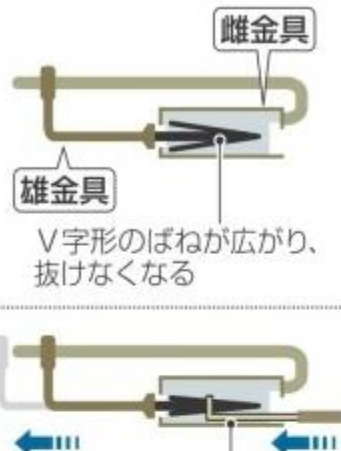


### 海老錠の仕組み



飛鳥京跡苑池から見つかった海老錠の雄金具(下)。上は飛鳥京跡で見つかった雌金具(奈良県立橿原考古学研究所提供)



### 朝鮮半島由来、3例目

## 飛鳥時代の錠前出土 奈良

この海老錠と鍵が、研究調査速報「大和」で展示される。7月16日〜9月4日までの飛鳥時代も同日まで。

飛鳥時代の日本最古の庭園・飛鳥京跡苑池(奈良県明日香村)の水路跡で、7世紀後半半の海老錠の雄金具が見つかり、県立橿原考古学研究所が13日、発表した。海老錠は飛鳥時代に朝鮮半島などから伝えられたとされ、同時代の雄金具出土は3例目。研究所は「本来の状態をとどめており、導入期の形態を知り、導入期の形態を知り、導入期の形態を知る史料」としている。正倉院宝物には約50個の海老錠と鍵があり、厨子や箱などで使われていた。今回の海老錠も大きさが近いことから、飛鳥時代も同日まで。

様に宮殿内で用いられていたと考えられる。研究によると、金属をU字に曲げた形が名前の由来。雄金具を雌金具に差し込むと、先端のV字形のばねが広がり、抜けなくなる構造。飛鳥京跡池の周辺では、飛鳥京跡や飛鳥池遺跡から雌金具も出土していた。鍵は

① このたび、飛鳥京跡苑池の水路跡で発見されたのは、何ですか？

② それは、いつごろどこから伝えられたのですか？

③ この錠がどのように鍵がかかるのか、書かれているところにマーカーで線を引きましょう。

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましよう。